



# め た せ こ い あ

島根県立吉賀高等学校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937

電話 (0856)78-0029 FAX (0856)78-0742

HP アドレス <http://www.yoshika.ed.jp/>

至 創 努 校  
誠 造 力 訓

## 学力向上について

吉賀高等学校 校長 熊谷 修山

先日3月18日(土)に吉賀町営の「サクラマス交流センター」の竣工式が行われました。吉賀高校の町外・県外からの入学生が寄宿させていただくことになります。また、吉賀高校の学力支援のための「公設塾」の設立も検討されていることも新聞に出ていました。さらに、キャリア教育では、町民の皆様から多大なご協力をいただいています。吉賀高校の教育活動の全体を俯瞰すれば、「吉賀町」の皆様から物心両面で絶大な支援をいただいています。小さい学校ながら、他校と遜色のない教育環境が整えられているのも、吉賀町の皆様のおかげであり心から感謝申し上げます。

さて、この恵まれた状況の中で、吉賀高校として原点に戻って今考えなければならないことは、何と言っても「生徒の学力向上」です。もちろん、時代がどう変わろうが施設・設備がどれほど整おうが、学校が生徒の学力をつける場であることはいつの時代も変わることはありません。吉賀高校も当然「学力向上」は何よりも大切なこととして、授業はもちろんのこと、個別の添削指導にも力を入れています。毎年の大学進学の実現も、個別添削によるところが大きいと思います。理解が十分でない場合も、個別指導で補っています。進学希望者・就職希望者のための補習回数は、平日・休日を合わせると相当数になります。

しかし一方で、学力をつけるのが、他の誰でもない生徒自身であるということも、いつの時代も変わらないことです。どんなにわかる授業をしても、どんなに制度や設備が整っていても、生徒自身がしっかり学習しなければ学力は向上しません。もちろん、教員の授業は大切です。教員の不断の授業改善の努力と、生徒自身の自学自習の努力がうまく結びついたとき、生徒一人一人の学力の向上が達成されるのです。授業については、先日公表された新学習指導要領で「主体的・協働的で深い学び」という方向性が示されました。「協働的」とあるように、いわゆるアクティブ・ラーニングはグループでの討議などが多くなります。これは、複数人間がいる学校という場でしかできません。一方で授業においてグループワーク等が多くなれば、その前提となる基礎知識や技能を身につけること、たとえば単語や公式を覚えることは、生徒の自学自習に負うところが大きくなります。吉賀高校では、これからの時代より重要度の増してくる自学自習の水準をより高めるために、平成29年度から自己負担で「Classi(クラッシー)」という学習支援ツールを導入します。これは、スマートフォンやタブレットを活用した学習支援ツールです。インターネットでの学習ツールの利点は、都会に居ようが田舎に居ようが場所に関係なく同等の学習環境が提供できることです。将来的には、授業での活用も考えられますが、まずはインターネット上の教材動画を視聴したり、ドリルに取り組んだりと自学自習の教材として導入します。ただし、だからといって決して「鉛筆で紙に書く」という行為がなくなくなるわけではありません。選択式の解答もありますが、きちんと紙に書いて正解を確認する問題も多数あります。そして、それをもとに、従来どおり個別添削指導も行っていきます。先日新聞にもあったように、株式会社カネキ様から個人指導に活用できるようにと、職員室前にホワイトボードをご寄付いただきましたが、そういう個別の指導を大切にしてきた吉賀高校のこれまでの在り方を、さらに充実させるためのツールとして導入するものです。吉賀町の皆様のおかげで教育環境の整った今こそ、もう一度原点に戻って「生徒の学力向上」にさらに取り組んで参ります。

## 卒業式

3月1日(水) 平成28年度第54回卒業証書授与式を、中谷勝吉賀町長様はじめ多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、盛大に挙行することができました。本年度は、「聞き書き」や「アントレプレナーシップ教育」などで卒業生がお世話になった皆様にもご臨席いただきました。

卒業生は、男子11名、女子16名、合計27名でした。3年1組担任の山崎誠也教諭に続いて、3年2組担任の安達美穂教諭がそれぞれ卒業生を呼名し、卒業生が一人一人壇上に上がって校長から卒業証書を授与されました。その際、校長が全員と握手を交わし、「小さい学校」ならではの卒業証書授与となりました。続いて中谷町長様、増本祥子吉賀高校PTA会長様からご祝辞をいただきました。中谷町長様は、吉田松陰の「夢なき者に成功なし」という言葉を引用されて、夢を持って努力するようにと激励をいただきました。増本会長は、「出会いが稀で、貴重であること」から、それぞれの出会いを大切にすることをお話しいただきました。在校生送辞では、泉生徒会副会長が卒業する先輩たちに感謝と激励のメッセージと、先輩たちの思いを引き継いで吉賀高校を盛り上げる決意の言葉を述べました。そして、松田前生徒会長が、答辞として吉賀高校での思い出を語り、保護者・教員・地域の皆様に対する感謝の気持ちと共に学んだ仲間を大切に思う気持ちを述べました。

厳粛な中にも温もりのある、「小さい学校」ならではの卒業式でした。ご臨席を賜りましたたくさんのご来賓の皆様、地域の皆様、そして保護者の皆様、ありがとうございました。



## ホワイトボードを寄贈していただきました

この度、吉賀町七日市の株式会社カネキ様(代表取締役・木戸洋様)、並びに山陰合同銀行・六日市支店様(支店長・村上則秋様)から、教育機関寄贈型私募債により職員室廊下にホワイトボードをご寄贈いただきました。そして、3月2日(金)10時より、吉賀高校応接室で寄贈式を行いました。吉賀高校としまして、個別指導をより充実させるために大切に活用させていただきたいと思えます。カネキ様、山陰合同銀行様、誠にありがとうございました。



## サクラマス交流センター竣工式

3月18日(土)に、町外生徒の宿泊施設として利用できるサクラマス交流センターの竣工式が行われました。音楽部による「心の里歌」の合唱の後、多くの関係者の方の祝辞をいただき、待ちに待った交流センターの竣工を祝いました。入所者代表の宇和佐君もテープカットに参加し、その後、地域の人々も含めて、交流センターの内覧会が行われました。新しい木の香りの漂う建物、充実した設備、きれいな内外装に驚きや感心の声が多く聞かれました。



## キャリア教育成果発表会

3月3日(金)に吉賀高校キャリア教育成果発表会を、吉賀町林業センターでたくさんの町民の皆様にもご来場いただいて開催しました。当日は、指導助言者として、青山学院大学教授・樋田大二郎先生、島根県教育委員会からキャリア教育調整官・渡邊宏志先生、教育魅力化特命官・岩本悠先生にご臨席を賜りました。

本年度は、吉賀中学校と六日市中学校の皆さんにも、日頃のキャリア教育の成果を発表していただきました。

吉賀中学校からは、文部科学省主催の「全国絆づくりサミット」で発表された、「吉賀中学校の絆づくり」の発表がありました。「先手必勝の明るいあいさつ・ちょっとした心遣い」が「成長」につながり、吉賀中学校の生徒同士の仲の良さにつながっていることが報告されました。

六日市中学校からは、六日市中学校で大切にされている「グローバル、ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ教育)」の視点に基づいて取り組んでいる、生徒会活動や各教科の学習を通じた豊富なキャリア教育の取り組みの内容について報告がありました。

吉賀高校からは、2月に行われた1年生の「聞き書き」発表会で優秀賞に選ばれた2作品と、12月に行われた2年生の「アントレプレナーシップ教育」発表会で優秀賞に選ばれた2作品の発表がありました。

1年生の「聞き書き」の1作品目は、人口班の「吉賀町の人口」についてでした。30年前の吉賀町の人口及び児童・生徒数と、現在の人口及び児童・生徒数を対比して吉賀町の現状をとらえ、また1ターンされた方々へのインタビューを通して、吉賀町を外から見た意見も参考にして、これから30年後の吉賀町の人口増加に向けた方策を提言しました。

もう1作品は、鳥獣班が「共存共栄」と題して、吉賀町の鳥獣被害についてまとめたものです。吉賀町産業化の方に取材をさせていただき、ニホンザル・ニホンツキノワグマ・イノシシの被害についてまとめ、人間の責任の問題も考え合わせて、動物との共存共栄の方策について提言しました。

2年生の「アントレプレナーシップ教育」の1作品目は、地域みまもり隊チームの「高齢化によってさらに発展する吉賀町」というテーマでした。ボランティアとして考えがちな地域のお年寄りの方の手助けを、「地域みまもり隊」として事業化し、町外・県外から移住する人の就職の場としてとらえていこうという提案をしました。

もう1作品は、チームトマトの「吉高特製ライスバーガー販売!!!」でした。地域クラブの先輩たちが考案し完成させ、七力祭やきんみん祭で地域の皆様から好評をいただいている「吉高特製ライスバーガー」を、キヌヤさんと交渉して商品化するまでの過程と、さらなる企画として豆腐ハンバーグなどを使って味のバリエーションを増やす挑戦などについて発表しました。

発表終了後は、青山学院大学・樋田大二郎先生、県教委・渡邊宏志先生、岩本悠先生からそれぞれ講評並びに指導・助言をいただきました。



## 離任の挨拶

### 俵 伸之教頭先生(国語科) 江津清和養護学校へ

3年前、初めての吉賀高校・吉賀町勤務ということで、周りの先生方はあれこれみんなわかっているのに、教頭の自分だけが分かっていない、そんな状態でのスタートでした。ずっと走り続けてきたものの、何もかも空回りばかりだった気がして、再び振出しに戻ってきた感じです。「BIG WORD」が嫌いで、自分の心と誠実に向き合っていたいと思う自分は、教頭という仕事が十分にできなかったという反省もしています。

一方で、この勤務により多くの発見がありました。出身地のことなどまるで考えなかった昔の自身への反省とか、地に根を下ろした状態で考える、キャリア教育・環境教育・地方創生……、今を生きるための様々な視点を得たと思います。その3年間を支えていただいた生徒、保護者、地域の皆様、本当にありがとうございました。



### 廣田泰之先生(理科) 江津高校へ

毎日、益田から吉賀高校に通勤して、最も印象に残ったのは吉賀町の自然の豊かさでした。吉賀高校ももちろん勉強になって良かったのですが、他の方々も書かれますので、私は吉賀町の自然について記しておきます。

【春】吉賀町は落葉樹が多いためか、山は樹皮の色で灰色です。夏には見えない林床の様子がよくわかります。4月～5月にかけて少しずつ緑に変わっていく様子を楽しんでいました。この落葉樹による照度の大きな変化が吉賀町の多様な生物達を生み出しているのだろうな、と感激していました。【夏】川の流が気持ちよさそうです。吉賀高校に勤務している間に、吉賀町～日原までカヌーかカヤックで川下りするといいなあと思っていましたが、なかなか実現できませんでした。いつかゆっくりできる時期がきたらチャレンジします。【秋】きれいな紅葉が楽しめました。国道187号線沿いは山が急なので、赤や黄色に染まった雄大な森に圧倒されました。特に気に入りの場所は吉賀町と日原町の境界近くの洞門横でした。【冬】谷が深いので山の上だけが白くなっている様子が見られ、気温の差を実感することができました。雪の積もった道路も楽しめました。【通年】季節を問わず、雲が発生する様子や消えていく様子を眺められたり、川霧を観察できたり、車の前にツキノワグマが飛び出してきてビックリしたり・・・とても貴重な体験ができました。四年間ありがとうございました。



### 岸 吏さん(事務) 内閣府へ出向(島根県東京事務所)へ

吉賀高校で3年間過ごさせていただきました。自分自身が高校を卒業して十数年ぶりに高校へ足を踏み入れ、赴任した当初は学校事務という仕事に慣れるために四苦八苦したことを覚えています。先生方を出来る限りサポートしようという励み、特に「地域クラブ」の活動にも参加させていただいたのは良い経験でしたし、楽しかったです。結果あつという間に3年間が過ぎてしまったなあというのが感想です。3年間ありがとうございました。

